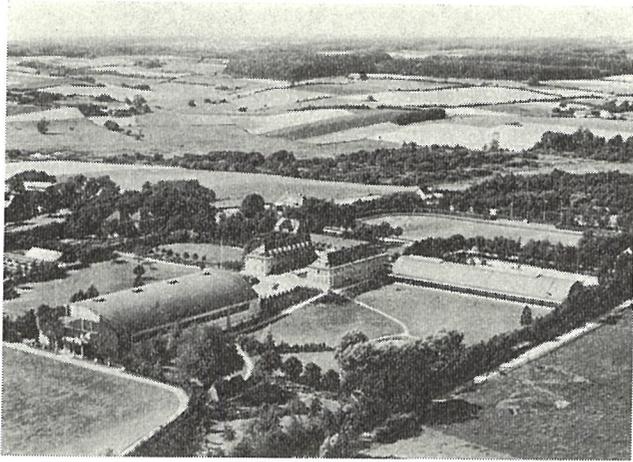


ジムナスティック・ホイスコーレン
イ・オレロップ
(GYMNASTIKHϕJSKOLEN I OLLERUP)

野原康一



オレロップ全景

オレロップがある。日本で読んだ中央公論社版の「世界の旅④北欧編」には次のように紹介してあった。

「スベンボーの西方約八キロの所にある一寒村。これといって目新しいものもないが、デンマーク体操で有名な、オレロップ＝デンマーク体操専門学校がある。創始者はニールス＝ブック。オレロップ国民高等学校でも体操や歴史を中心とした授業が行われている。全寮制で、夏期三ヶ月、冬期五ヶ月の間親睦を深めながら、全国一二〇の高等学校でデンマーク体操の実技、講習が行われ、それがデンマーク人の人間形成に大いに役立っている。」

この学校の卒業生である先輩の話と、これだけの予備知識を持ってこの学校の門をたたいたのは一九七二年四月三十日の午後のことであった。グレッタ先生の案内で三階の私の部屋に通され、ソファベッドに組込まれている寝具をセットしていただき、荷物を運び込み旅装をといた時、どっと疲れを覚えた。モスクワ経由でストックホルム、オスロと不慣れな初めての外国の一人旅はほんとうに疲れた。荷物を整理しているとドアをノック

コペンハーゲンから急行に乗って約三時間でアンデルセンの故郷オーデンセに着く。こ

こで乗り換えてスベンボーまで約一時間、バスで十五分の所にデンマーク体操のメッカ、



スウェーデン
デンマーク以外のからは、ノールウェー
アメリカ、イギリス、カナダから受講生が参
加していた。日本からは、玉川学園、自由学
園を卒業の女性二人と、大阪府下の青年、私
と四人であった。総勢九十名、学校の先生、
スポーツクラブのリーダー、将来体育の指導

を夢見る二十才前後のはつらつとした若者の
中であつて、まさに四十才の誕生日をオレロ
ップで迎えんとする私は、内心これは大変な
所に来てしまったと後悔したものである。モ
ーテンセン校長の歓迎の挨拶、諸注意があつ
て午前中は授業料の納入、書籍の購入、写真
撮影をする。午後は組別けがあつた。コース
は大きく二つに分けられていて、スポーツ専
門と体操専門を希望する者が五クラスに編成
された。私の場合は体操コースを選ぶと共に
ほとんどの授業がデンマーク語で行われるの
で、担任のグレッタ先生にアレンジしてもらい
実技以外では生態学を受講することにした。
いよいよ授業開始である、一時限目は八時
から始まりデンマーク語か体育理論、二時限
目は教育法、三時限目はスポーツ、四時限目
は特別に女子の体育を見学してもらう、五
時限目は生態学かボールゲーム、六時限目体
操、七時限目水泳、八時限目体操、夕食後は
ボールゲーム、フォークダンス、二班に別れ
て乗馬とボートを週一回スベンボーのボート
クラブが隣り村にある乗馬学校に出かけてレ
ッスンを受けた。月曜と水曜の午後九時半か
ら歌とお茶の会があり、校長室、応接室を開

放されるので、我々は好きな場所に陣取つて
大きな声で歌いお茶を飲んだり、アイスクリ
ームを食べ愉快な一時を過ごした。以上が一
週間の授業内容なので毎日が大変であつた。
朝一時限目のデンマーク語は親日家で日本に
来られたことのあるグレッタ先生が英語で熱心
に親切に指導して下さるので、テープコーダ
を持ち込むなどしてこちらもそれに応える。
この学校に学んだ日本人でこの先生にお世話
にならなかつた者は無いはずだ。困つたこと
や相談を持込んで先生に御迷惑をおかけし
たものだ。でもいやな顔一つせずに何んでも
聞いて下さつた。宿題をなまけてこようもの
なら「なぜ」と日本語で詰問されるのには参
つたものである。
オレロップには大中小三つの体育館があ
る。スポーツ専用の大きな体育館と体操専門
の体育館が二つ、いずれも温風の暖房がして
あるので学生たちは半パンツ一つで体操をす
る。私のクラスは十五名で一列縦隊に並んで
体育館を行進、駆け足、片手を腰に片方の手
を廻旋、両手を同時に廻旋させながら走る。
ちように陸上競技の選手がやるリンバーアッ
プのような体操が準備体操であつた。次に肋

木を使つての運動がある。日本では肋木の体操を習つたこともなかったので良い勉強になつたが、自分の肩関節が思つていたより固くなつていたので苦痛であつた。姿勢矯正の体操としてはすばらしい効果を上げることができた。次に何十回となく倒立、倒立のまま二十米ほどを歩く、毎時体操の時間これをやらされるので一月余りの間に胸囲が八センチも増えた。マット運動でも跳箱運動でも補助がしつかりしているので恐怖心なしに大胆に技を練習することができた。日本では目新しいジャズジムナステイック、ミュージックジムナステイックは楽しい時間であつた。体操の先生とピアニストがペアとなり、リズムに合わせての体操は、激しい動きも苦痛を感じず一時間の授業も短かつた。

毎日のようにある水泳には苦勞したが、この時間からも教えられることが多かつた。温水のシャワーを浴びながらシャボンをしみこませてあるスポンジで全身をくまなく洗い、水着をつけ、ゴム製の帽子をかぶつて室内プールに入るよう義務つけられている。先生の指示で泳ぐのだが準備体操なしで泳がされるのには驚いた。日本のように申し分け程

度にシャワーを浴び入念に準備体操をしてから水泳をするようにしつけられてきた私にはこの学校のやり方は清潔この上なしに見えたが不思議に思えた。温水で筋肉をウォームアップしているのだから準備体操は不要ということなのか……。平泳ぎと背泳ぎが主でリズムミカルに泳ぐことに重点が置かれ、スピードはあまり強調されなかつた。一時間の授業で千米泳がされることもたびたびあつた。ダイビングも必須で毎時間練習した。日によっては水泳の後二時間続いて体操やトランポリンの授業があるので私の年では大変であつたが、北欧の若者たちとスタミナではひけを取らなかつたと自負している。初めての経験で楽しかつたものに乗馬があつた。夕食後マイクロバスに乗つて隣り村の乗馬学校に出かける。各自与えられた馬の世話をしてから先生の指導でレッスンを受ける。最後は遠乗りをするまで



創始者ニールス・ブクの碑

になれたが、日暮れの遅いデンマークの野道を駆けたことなどは終生の想い出となる。学校が全寮制であつたので、より良く多くのことを学べたと思う。寮は一人もしくは二人部屋で質素であるが清潔そのものであつた。私は一人部屋を与えられていた。隣室のエリック、私の次に年長であるスベンが良い友達になり、何かと世話をしてくれたので、ホームシックにもかからずに済んだ。自由な雰囲気の中で規律が守られ、日本人にありがちな縦の関係もできずに、のびのびと寮生活が楽

しめた。

ある朝突然大鼓と笛の音で目を醒ましたことがある。何事が起ったのかと目をこすりながら見ると、手に手にノールウェイの小旗を振ってキャンパス内を行進し、やがて村の方に出て行く一隊がある。ノールウェイから来ている学生たちがナショナルデーを祝ってのパレードであることが後で知らされた。苦勞の末独立した北欧の小国家の人たちの祖国愛といったものをまざまざと見せつけられた。寮内では喧嘩一つなく、また盜難は一件もなかった。現金は金庫に各自保管してもらっているが、その他の物品は鍵一つかけない部屋に置いていても何一つ無くならなかったし、また置忘れにしても、その時の状態のまま何日も同じ場所にあった。彼らの生活態度どれ一つとってみても考えさせられることが多かった。先生の住居もほとんどキャンパス内にあり、校長夫妻も本館の一部に住んでおられる。教える態度は熱心そのもので学生をぐんぐん引っぱって行かれる。アメリカやカナダから来ていた学生には頭がかた過ぎると批判されておられたが、私学のリーダーとしての面目躍如たるものがあつた。他の多くの先生

方も校長に右へならえて素晴らしい人たちばかりであり、夫婦共にこの学校で働いておられる先生方が多かった。修了式の日はほとんどの学生たちが目に一ぱい涙をため、ある者は手ばなしで泣きながら先生方に握手をし感謝の言葉を述べていた光景を見られて、現在の日本の教育のあり方と違つて一面を素直に認めざるを得なかつた。少ないクラスの学生に肌でぶつかれる。与える側も受け取る側も熱心である。強制することなしに学生たちの力を延ばして行く指導力、情熱には頭が下がる思いがした。日本の教育が詰め込み主義の大学受験一本で進んで行くならば、たとえ一クラス二十名ぐらいになつたとしてもこのような状態にはならないと思う。体操王国日本の体操とデンマーク体操を比較するのに、私人の表現を持つてするならば、日本のそれは太陽を避ける国の体操と、太陽を吸収しようとする国の体操の差だといいたい。日傘をさし日影に入つて太陽を避ける国民と、北欧の弱々しい太陽光線を体中に受けて体を鍛えようとする国民の差が体操にそのままあらわれていると思う。日本は他律的であり、北欧は自律的である。短い夏に思う存分肌をこがし、

体を鍛えておかなければ長い冬には耐えられないのである。自然の厳しい環境の中で生き抜くための自然発生的な体操がスウェーデン体操、デンマーク体操なのである。社会体育施設の素晴しさは、日本の学校体育中心の国では考えられないほど充実している。大きな都市はもちろんのこと、小さな町にいたるまで、規模こそ異なるが、立派な体育施設を完備しているのを見学してうらやましく思つた。土曜の午後ともなれば、三々五々クラブに集まつてスポーツを楽しみ、体操で汗を流す姿がそこに見られる。営利目的の施設ではないので会費は安く、ゴルフでも一回約百円でプレーできた。何もかも余りにもわが国の現状と違い過ぎる。積極的に日常生活の中に身体活動を国民一人一人が取り入れようとする時に、体育施設を生み、クラブを生んで行くのだと思う。日本に帰つたらせめて温水のシャワーだけでも学校に頼んで付けてもらおうと思つた。この程度のことから、オレロップで学んだことを生かして行きたい。楽して感謝している。